

2020 年度第 1 四半期 決算説明会 Q&A

(20Q1 は 2020 年度第 1 四半期、20F1 は 2020 年度上半期、20F は 2020 年度を示します)

【20Q1 実績・20F 予想】

Q. 期初に業績予想の前提となるセット台数を示したが、現時点でどう見ているか？

A. 業績予想を修正していない背景には、セット台数の見通しが大きく変化していないということがある。期初に示した通り、スマートフォンは前年度比▲10%、自動車は同比▲20%、くらいになると思う。

Q. 20Q1 の生産が期初想定と比べて上振れたが、20Q2 の生産と売上は期初想定と比べてどうか？コンデンサの操業度はどう変化するか？

A. 生産は 20Q1 に上振れた分、20Q2 は期初想定より若干減り、おおよそ 20Q1 と同じ水準になると思う。売上は 20Q1 が期初想定を少し下回っているが、20Q2 で取り返すイメージで、20F1 では期初の業績予想を達成できだろうと見ている。コンデンサの操業度は 20Q1 が 85~90%、20Q2 が 90~95%で、20F1 では 85~90%と期初想定から変わらないと思う。

Q. 20Q1 の生産高が、期初想定より高かったことによる利益影響はどのくらいか？

A. 業績予想は四半期毎ではなく半期毎なので数字はない。生産高をベースにシミュレーション頂けたらと思う。

Q. 20Q1 から 20Q2 にかけての製品別売上の伸び率は？

A. 業績予想を修正していないので、20F1 業績予想と 20Q1 実績の差引でお考え下さい。20Q1 に比べるとモジュールや電池が増加するイメージ、コンデンサも若干増加する。

Q. 20Q2 について、会社計画を達成可能と考えている根拠は？

A. 7 月の受注は前月比で 35~40%の増加となり、ほぼ全ての用途で回復が見られる。20Q1 に特に落ち込んだ車も増加している。売上・利益とも達成できだろうと見ている。

Q. 月次の受注のトレンド・推移は？

A. 受注を前月比で見ると、5 月は▲5~10%、6 月は+10~15%、7 月は+35~40%。

Q. 足元の流通在庫の状況は？

A. MLCC の流通在庫が自動車向けで解消できていなかったが、ようやく健全な形に戻りつつある、それも 7 月の受注拡大につながったと思う。スマートフォンなど他の用途の流通在庫はそれより前に健全化したと考えている。

Q. 設備投資について予想からの変化はあるか？

A. 期初予想の時点で COVID-19 の影響をある程度織り込んでいる。2,000 億円のほとんどは予想通り実行すると思う。建物については COVID-19 で若干工事が遅れ、20F2 にずれるものもある。みなとみらいの竣工の若干の遅れなどが想定される。

Q. 基地局向けの売上の動きは？

A. 19Q4 に COVID-19 に備えた部品確保があって、20Q1 は減少した。また、先行している中国で、トータルの加入者数も踏まえて、5G 戦略が少し変化しているのかなと思う。基地局のアンテナ構成がシンプルになると、部品もその影響を受ける。中国が先行していたが、欧州の基地局も今後伸びてくると思う。

【モジュール】

Q. 高周波モジュールについて、世界の顧客からのニーズと、これからの機会は？

A. COVID-19 で通信へのニーズは拡大している、5G の比率は当初想定より上がると思う。5G になることで、これまでの LTE などのモジュール化も加速しており、それらに対応することが求められている。また 2021 年以降、5G が成熟すればフィルタの要求仕様がシビアになる。SAW フィルタの発展形の I.H.P. SAW や XBAR の投入で対応していく。

Q. 中華圏スマホを分解したが、ムラタのロゴが入ったモジュールが明確に観察できなかった。モジュールで競り負けていないか？ 20F2 や来年の時間軸でどう考えているか？

A. 5G の立上げ当初は少し特性で負けていたところもある。2,3 機種目からは巻返しができたと考えている。

Q. 5G のミリ波はいつ主流になるのか？ アンテナ一体型モジュールでの技術優位性は何か？

A. スマートフォンの買替えサイクルが 2 年から 4,5 年に変わっており、今秋くらいからミリ波対応モデルも伸びると思っている。利用可能地域は限られているが、スマートフォンは先取りして導入されるケースが増えてくると思う。アンテナ一体型モジュールでは、員数を減らす提案ができるかどうかで差が出る。アンテナの技術が重要になり、2 個で 360 度対応できるものを提案している。ミリ波導入時は 3 個使われるケースが多いと思うが、2021 年以降、員数を減らす提案を浸透させたい。

Q. 360 度対応するにはアンテナの設計でどういう技術が必要なのか？

A. ビームフォーミングの技術が必要である。長さのコントロール、導電率のコントロールなどが求められる。また、直進性の強いシグナルなので、1 面だけでなく 2 面に向けられる配置の自由度がキーになる。

当 Q & A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q & A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。